

令和6年度和歌山県文化表彰について

令和6年度和歌山県文化表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせします。文化表彰とは、文化の向上発展に特に顕著な功績のある個人や団体を表彰するもので、和歌山県の芸術文化の振興を図ることを目的としています。

1 受賞者（50音順・敬称略）

(1) 文化賞（文化の向上発展に特に顕著な業績を示し、和歌山県の誇りに値すると認められる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
まつざわ ゆうじ 松澤 佑次	83	兵庫県	田辺市	医学者

(2) 文化功労賞（文化の向上発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
ほりみち お 堀 道雄	76	和歌山市	大分県	動物生態学者

(3) 文化奨励賞（すぐれた文化の創造と普及活動を続け、将来一層の活躍が期待できる方を表彰）

氏名	年齢	住所	出身地	分野
きたじま か 北島 佳奈	43	和歌山市	和歌山市	ヴァイオリン奏者
たなか しゅうすけ 田中 秀介	38	大阪府	和歌山市	画家

（年齢は令和7年1月10日現在）

2 表彰式

- (1) 日時 令和7年1月10日（金）14時～
(2) 場所 和歌山県庁本館4階 正庁

3 賞

表彰状、^き徽章（メダル）及び副賞をお贈りします。

4 沿革

昭和39年度から実施、本年度で61回目を迎えます。

5 来年度の候補者の推薦

令和7年4月下旬から6月末まで、候補者の推薦を受け付ける予定です。
（どなたでも推薦することができます。ただし自薦はできません。）

（連絡先）企画部 企画政策局 文化学術課 文化企画班
担当：北代（きたしろ）、前田
電話：073-441-2050（直通）
内線：2060

令和6年度和歌山県文化賞

まつざわ ゆうじ
松澤 佑次

住 所 兵庫県宝塚市
出身地 和歌山県田辺市
生 年 昭和16年

◎ 業績及び経歴

昭和16年田辺市に生まれる。昭和41年大阪大学医学部を卒業後、臨床研修を経て大阪大学第二内科に入局し、内科学の研鑽と医学生・研究生の指導に勤しむとともに、糖・脂質代謝を中心とした内分泌代謝学研究、生活習慣病対策をライフワークとして続ける決意を固めた。以後、同大学にて第二内科講師、第二内科主任教授、医学部付属病院長を歴任。研究面では、生活習慣病の大きな要因であると考えられる肥満の意義を明らかにするために、1980年代に、当時普及し始めたCTスキャンにより全身の脂肪組織の分析を行い、皮下脂肪ではなく、腹腔内脂肪（内臓脂肪）の蓄積が多く、生活習慣病や心血管病の原因になっていることを突き止めた。そのメカニズムを解明するために、大阪大学細胞工学センターのグループと脂肪細胞の遺伝子解析の共同研究を行い、単に過剰エネルギー備蓄細胞と考えられていた脂肪細胞が体をコントロールする多彩な生理活性物質（後にアディポサイトカインと名付けられる）を分泌する内分泌細胞であることを明らかにし、その分泌異常が生活習慣病の発症と関係するアディポサイトカインの概念を提唱。その間、抗糖尿病作用、抗動脈硬化作用などを持つアディポネクチンを発見し、内臓脂肪蓄積によるアディポネクチンの合成低下が生活習慣病発症の要因になることを明らかにした。平成12年には、日本肥満学会理事長として、外国より高度肥満が少ないながら肥満に関連する糖尿病、脂質異常、高血圧の頻度が多いわが国に適合する肥満症の概念と診断基準を発表。平成15年には、メタボリックシンドロームの概念と診断基準を発表。生活習慣の改善によってその減量を目指すわかりやすい対策は国の健康政策に取り入れられ、平成20年から特定健診として実施されるなど社会に広く浸透している。

メタボリックシンドロームの提唱とアディポネクチンの発見など、基礎医学・臨床医学の両分野において世界的な業績を挙げられた氏の功績は、本県の誇りである。

■ 現 在

- ・一般財団法人住友病院名誉院長・最高顧問
- ・大阪大学名誉教授

◆ 主な表彰歴等

- 平成12年 第1回日本動脈硬化学会賞
- 平成12年 日本医師会医学賞
- 平成13年 2001年度（第38回）エルウィン・フォン・ベルツ賞（1等賞）
- 平成14年 日本糖尿病合併症学会学会賞
Expert Investigator Award
- 平成16年 武田医学賞
- 平成16年 井村臨床医学賞
- 平成17年 日本肥満学会賞
- 平成17年 13th Dr. Mohan's DSC
Gold Medal Oration
- 平成18年 国際肥満学会 Willendorf賞
（最高学術賞）
- 平成18年 紫綬褒章
- 平成20年 日本内分泌学会マイスター賞
- 平成20年 日本糖尿病合併症学会
Distinguished Investigator
Award
- 平成20年 Jean Vague/Per Bjontorp
Memorial Award
- 平成27年 瑞宝中綬章
- 令和2年 第4回早石修記念賞
- 令和2年 第25回安藤百福賞 大賞

令和6年度和歌山県文化功労賞

ほり
堀

みちお
道雄

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 大分県速見郡日出町
生 年 昭和23年

◎ 業績及び経歴

ひじまち

昭和23年大分県速見郡日出町に生まれる。昭和52年京都大学理学研究科博士課程修了、博士号を取得。同年から和歌山県立医科大学で生物学の教鞭をとり、助手・講師・助教授を務め、平成6年から京都大学理学部動物学教室で助教授・教授を歴任した。

氏は、魚類などの水生動物の左右性について独自の研究を展開し、水生動物では、全ての個体が右利きか左利きのどちらかであり、捕食・被食関係においては少数派が有利となるために、この左右二型の比率が周期的に変動しており、それ故に多種が共存することを発見した。この左右性は、全ての魚類、さらにエビ・カニ、コウイカの個体群でも、同様の機構で二型の比率が周期的に変動し、多種が安定的に共存する証拠を多角的に示した。新たな分野を開拓して発展させた功績は高く評価される。

氏は、ハンミョウ類の生態の研究でも目覚ましい成果を上げている。和歌山県では、昭和50年に白浜町日置川河口でヨドシロヘリハンミョウを発見した。現在、本種は県のレッドデータブックで「絶滅危惧Ⅰ類」に分類され、県内では日置川河口のみに生息する希少種であり、本県の生物多様性を象徴する重要な発見である。その生息地は、本種の分布の東限であり、和歌山県は平成28年に天然記念物に指定したが、氏はその際に本種の生態や学術的価値、希少性、地域指定の範囲など多くの助言で貢献した。

令和2年からは和歌山県立自然博物館協議会委員及び同評価部会委員を務め、同館の魅力向上や、県民から親しまれる施設を目指した提言とともに、学芸員へも的確な助言を送るなど、自然博物館の機能向上に大きく貢献している。さらに、本県が次世代の自然環境保全の担い手の育成を目指して令和3年度から始めた「わかやまネイチャー・アワード」では、令和5年度まで審査に携わり、応募したこどもたちに、意欲や探究心を刺激する助言を行うなど、未来を担う人材の育成・発掘にも貢献している。

長年にわたり、研究者として活躍するとともに、本県の希少生物種の保全と自然科学の向上に貢献してきた功績は誠に多大である。

■ 現 在

- ・京都大学名誉教授
- ・和歌山県立自然博物館協議会 委員
- ・和歌山県立自然博物館協議会 評価部会委員

◆ 主な表彰歴等

- ・平成5年 滋賀県生態学琵琶湖賞
- ・平成20年 日本動物学会 Zoological Science Award
- ・平成25年 日本動物学会 Zoological Science Award (2件)
- ・平成30年 日本動物学会 Zoological Science Award
- ・令和5年 日本動物学会 Zoological Science Award
- ・令和5年 日本動物学会賞

令和6年度和歌山県文化奨励賞

きたじま かな
北島 佳奈

住 所 和歌山県和歌山市
出 身 地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和56年

◎ 業績及び経歴

昭和56年和歌山市に生まれる。4歳からヴァイオリンを始め、小中学生の頃から頭角を現し、数々のコンクールで優秀な成績を挙げる。京都市立芸術大学を卒業後、同大学院音楽研究科修士課程に進み、平成18年に首席で修了し、大学院賞を受賞する。大学院在学中にドイツのフライブルク音楽大学に留学し、ベルリン・ストリングマスターコース（ダニエル・バレンボイム音楽監督）において最優秀好演奏賞を受賞。フライブルク音楽大学の地元であるバーデンヴュルテンベルク州からは奨学金を授与される。帰国後は、兵庫芸術文化センター管弦楽団（佐渡裕芸術監督）に所属し、現在はレジデント・プレイヤーとして活躍する。ソロでのリサイタル活動も精力的に行い、平成27年にはファーストアルバム「ソレイユ」をリリースし好評を博す。

演奏家が普段音楽に触れることが少ない地域や施設等に出向いて演奏を披露するアウトリーチ活動にも積極的で、平成22年から一般財団法人地域創造の公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティストとして全国各地の学校、施設、公共ホールで演奏活動を行う。

個人の音楽活動も活発で、東日本大震災のチャリティーコンサートを企画したことを契機に、「世界に一つだけの音楽会」と題して、就学前のこどもでも参加できるコンサートを継続して開催する。令和4年からは和歌山市主催の子育て関連事業にも協力し、乳幼児と保護者が音楽を楽しむ機会を提供している。令和4年に立ち上げた和歌山キッズオーケストラでは、代表として幼稚園児から高校生までの団員を指導し、こどもの演奏技術を伸ばすだけでなく、音楽を通じてこどもの豊かな心を育むことにも大きな情熱を持って取り組んでいる。

伸びやかさと力強さを兼ね備えた確かな演奏技術を持ち、地域に寄り添った活動を継続する氏は、今後もより一層の活躍が期待される。

■ 現 在

- ・ヴァイオリン奏者
- ・和歌山キッズオーケストラ代表
- ・兵庫芸術文化センター管弦楽団 レジデントプレイヤー
- ・一般財団法人地域創造 公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◆ 主な表彰歴等

- 平成19年 大桑教育文化振興財団 大桑文化奨励賞
- 平成21年 一般社団法人和歌山青年会議所 アゼリア賞
- 平成28年 和歌山市文化奨励賞

令和6年度和歌山県文化奨励賞

たなか しゅうすけ
田中 秀介

住 所 大阪府大阪市
出身地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和61年

◎ 業績及び経歴

昭和61年に和歌山市に生まれ、5歳まで同地で過ごした後に転居し、以後は那賀郡貴志川町（現在の紀の川市貴志川町）で育つ。

高校卒業後の平成17年に、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校美術工芸学科絵画専攻に進学し、平成19年に同校を卒業後、大阪芸術大学に編入する。平成21年に大阪芸術大学美術学科油画コースを卒業した同年には初個展「信じがたい部分」を開催し、以降も数々の個展やグループ展で作品を発表する。

自身が目にした光景の中から気になった場所、違和感、なぜか目を離せなかったものなど、自身が感じた何かしらの驚きといったものを主題としながら、感情のゆらぎをも描写するという、絵画にとってその困難な課題を、様々な技法を用いて作品に結実させている。ときには遠近法から離れて歪んだような不思議な空間を描き出すなど、その独自の表現で広く注目を集める。

また、作品自体に加えて、作品の題名や作品解説、それに伴う話法、個展名も独自性が高く、その一つ一つが作品を観る者の感情と思考に訴えかけるものがあり、作品の魅力と相まって独特の感動を生み出している。

令和4年には、大阪市立自然史博物館において個展「絵をくぐる大阪市立自然史博物館」を開催し、実際にある展示物を描いた作品を、恐竜等の骨格標本といった本物の展示物の間近で鑑賞するという斬新な展覧会に取り組み、そのユニークなコラボレーションは大きな話題となる。

令和5年には、40歳以下の若手作家の中から未知の優れた才能を紹介する現代美術展「V O C A展2023 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」（上野の森美術館主催）の出品作家の1人に選出され、全国的にも注目を集めている。

近年は海外の展覧会やアートフェアにも出品するなど活動の幅を広げており、今後もさらなる活躍が期待される。

■現 在

・画家

◆主な表彰歴等

- 平成21年 Art Camp 2009 サントリー賞
- 平成28年 トーキョーワンダーウォール公募2016 トーキョーワンダーウォール賞
- 平成30年 清須市第9回はるひ絵画トリエンナーレ 準大賞
- 令和5年 「V O C A展2023 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」選出
- 令和5年 大阪市咲くやこの花賞
(美術部門<現代美術>)

【文化表彰各受賞者からの受賞に際するコメント】

《文化賞 松澤 佑次 様》

この度は、思いもかけず大変名誉ある和歌山県文化賞をいただき、私の長年の研究を故郷から評価していただいたことに望外のうれしさを感じています。田辺高校を経て大阪大学医学部を卒業後一貫して、生活習慣病の原因究明と対策のための研究を続けてきました。その中で、同郷の南方熊楠が示された日本人の誇りを基盤にした世界への発信を参考にしてきたように思っています。和歌山県の益々のご発展を祈念しています。

《文化功労賞 堀 道雄 様》

この度は、和歌山県文化功労賞を賜り誠に光栄に存じますとともに、厚くお礼申し上げます。

こどもの頃から生き物が好きで、その好奇心のままに職を選び、「継続は力」をモットーに研究を続けてきました。思えば好奇心を持ち続けることができたこと自体がとても幸運でした。野外研究は共同研究者との協働なしには成り立ちません。これまでの成果はいずれも多くの共同研究者と支援者のご尽力の賜物です。皆さまとともに受賞を喜びたいと思います。

《文化奨励賞 北島 佳奈 様》

この度は和歌山県文化奨励賞という名誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じますとともに、心より御礼申し上げます。昨年から、和歌山県のみなさまと共に舞台を創らせていただき、県内4つのホールにて公演いたしました記念すべき特別な年に受賞賜り、関係者の皆様、そして私を支えてくださっている皆様方には感謝と共にご報告できますことを嬉しく存じます。今後も精進して参りたく、何卒御指導賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

《文化奨励賞 田中 秀介 様》

この度は和歌山県文化奨励賞を賜り誠にありがとうございます。

私はたまたま和歌山で生まれました。幼少の頃から十代、それはごく当然に和歌山の豊かな自然を享受し育ちました。二十代、和歌山を出て忙しなく暮らす中、ふと見上げた暗い空に和歌山の明るい星を重ねる事もありました。三十代、家族が増え、人が育つ環境を意識し、翻って自身の育った環境の豊かさを痛感し、今では和歌山が愛おしいです。今回を機に和歌山と何か契りを交わせた気がして嬉しく思います。私は和歌山をまだまだ知りません。これからも和歌山を描き腑に落とし、自身の和歌山を大きくしていきたいと思っています。

令和6年度和歌山県文化表彰受賞者

【文化賞】



松澤 佑次 氏

【文化功労賞】

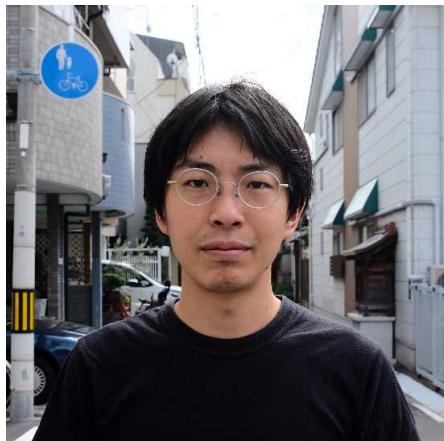


堀 道雄 氏

【文化奨励賞】



北島 佳奈 氏



田中 秀介 氏

※下記へご連絡いただければ、写真データをメール送信させていただきます。

担当 文化学術課 北代 (きたしろ)

Email kitashiro_y0001@pref.wakayama.lg.jp